



【2009年1/8～2/1のテーマ：イエスの生涯】

新しい年となり、イエスの公生涯の最初に焦点を合わせていきます。

- 1/11 (本日) イエスが受けられたバプテスマ
- 1/18 スモーカー宣教師・特別礼拝 (テーマから外れます)
- 1/25 イエスが受けた荒野での誘惑
- 2/1 カナの婚礼での最初の奇跡

主イエスが真の人となられ、私たちのためにどのような意味で模範となってくださったのか、バプテスマと聖霊降臨、悪魔の誘惑、そして最初の奇跡の話を通して学びます。期待しましょう！

【今週の暗唱聖句】

マタイ3:17 また、天からこう告げる
声が聞こえた。「これは、わたしの愛する
子、わたしはこれを喜ぶ。」



●この聖句は主イエスが洗礼を受けられ、聖霊が鳩のようにご自身に下った直後に起った出来事を説明している。洗礼者ヨハネはもとより、ヨハネから洗礼を受けていた民衆も目撃し、聞いた言葉であったろう。ところで旧約聖書には二ヶ所、上記聖句と連動しているところがある。先ず、
詩篇2:7 「わたしは主の定めについて語ろう。主はわたしに言われた。

『あなたは、わたしの子。きょう、わたしがあなたを生んだ。』

さらに、

イザヤ42:1 「見よ。わたしのささえるわたしのしもべ、わたしの心の喜ぶわたしが選んだ者。わたしは彼の上にわたしの霊を授け、彼は国々に公義をもたらす。

である。当時のユダヤ人にとり、非常に有名なこれらの聖書箇所のエッセンスが天からの声として聞こえたことは大きな驚きであったことだろう。紛れもなく目の前で洗礼を受け、御霊が下るのを見たこの人物こそ、救い主、メシヤなのか！？期待は募ったであろう。

●ところで「三位一体」は旧約聖書には無い、と主張する人がいるがこれら旧約聖書の箇所には明白に出ているではないか。詩篇2篇では「神の御子」が登場する。さらにイザヤ書では「神の霊」がこの人物に注がれることが告げられている。イエス・キリストの地上での歩みは見事に旧約聖書の謎解きになったのである。■

【今週の英語】 *Adrian Rogers "Adrianisms"より*

God's promises are not mottos to hang on the wall.

They are checks to take to the bank.

神の約束は壁掛けにするモットーではなく、銀行に持って行く小切手である



Prayer will make man cease from sin.

Sin will make man cease from prayer. --John Bunyan

祈りは罪をやめさせるが、罪は祈りをやめさせる。ジョン・バニヤン

★今年も気の利いた英語の表現をどんどん発掘して
皆さんに紹介したいと思っています。牧師

【先週のメッセージより】

私たちは神の神殿、聖霊が宿っている「移動式神社」のようなもの。ゆえに誠心誠意を尽くし、これを尊く扱い、聖く保つ努力をする。その御霊は私たちのために大きく三つの働きをされる。

- 1) 御霊により私たちは神の子供とされている自覚が生まれる。
- 2) 御霊は父と子によって送られた私たちの家庭教師の役割を担う。
- 3) 御霊は世界宣教の使命を果たすために信者に賜物と能力を与え、フレッシュで新しい力を注がれる。

●御霊がまず扱われるのは私たちの「肉」の問題。肉の本質は神への反逆と自己中心である。神は私たちを「肉の性質を残した状態」つまり罪を犯す可能性を持ち続けた状態で私たち救って下さった。以前は罪の力に抵抗する手段が無く、罪に引きずり回される一方であったが今は以前のように罪に引きずられるか、それとも御霊に従って罪から離れ、聖めに進むか、選ぶことができる「自由」が与えられた。

●この選択は「愛に生きるか」「自己中で行くか」という風に表現してもいい。神は誘惑や試練を通して、私たちの「愛の性質」が成長することを願っておられる。ここで今一度重要なのは、私たちが自分の罪深い「自我」の力の前では無力であることを認めることである。なぜか？神抜きに自我に打ち勝とうとすることは、自我の力で自我に打ち勝つ、と言っているのと同じで、そもそも矛盾しているのである。

●これらの誘惑や試練に打ち勝つための二つの焦点は「十字架」と「御霊」である。十字架を見上げ、キリストが私の罪深い生き方のために十字架にかかり、私もその罪を十字架につけたことを思い起こすこと、さらに肉の性質を唯一取り除くことの出きる聖霊に対し、日々従順を誓い、誘惑や試練が来た時には真っ先に「助けて下さい」と叫ぶことである。この従順に神が答えてくださり、実際に罪を離れた生きかたをすることができるようにして下さるのである。■